

令和7年4月4日

【照会先】

健康・生活衛生局
感染症対策部感染症対策課
(担当・内線) 上地 (4646)
栗島 (4643)
(電話・代表) 03(5253)1111

報道関係者 各位

薬剤耐性ワンヘルス動向調査年次報告書 2024 を公表します

このたび、「薬剤耐性ワンヘルス動向調査年次報告書 2024」が取りまとめられましたので公表いたします。

抗菌薬の不適切な使用を背景として、薬剤耐性菌が世界的に増加する一方、新たな抗菌薬の開発は減少傾向にあり、国際社会でも大きな問題となっています。この薬剤耐性(Antimicrobial resistance:AMR)問題に対応するためには、ヒト、動物、食品及び環境といった各分野横断的な対応(「ワンヘルス・アプローチ」)が重要であると、国際的にも認識されています。

我が国においても、薬剤耐性(AMR)対策アクションプランの中で、ヒト、動物、食品及び環境等から分離される薬剤耐性菌の分離率や抗微生物剤の使用量(又は販売量)等に関する、統合的なワンヘルス動向調査を毎年実施することが掲げられ、AMRの現状を正確に把握し、課題を抽出、適切な施策を進めることが重要とされています。

厚生労働省としても、こうした問題意識の下、毎年、専門家や関係府省庁担当者によって構成された薬剤耐性ワンヘルス動向調査検討会を開催しています。

本報告書では、検討会での議論を踏まえ、新たに2023年までの動向をとりまとめました。概要は以下のとおりです。

【薬剤耐性ワンヘルス動向調査年次報告書 2024 の概要】

- (1)「AMR 対策アクションプラン(2023-2027)」の成果指標について、ヒト(2023年まで)及び動物分野(2022年まで)における推移をとりまとめた。
- (2)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌やフルオロキノロン耐性大腸菌は減少傾向であるものの、バンコマイシン耐性腸球菌感染症では多施設が関連する広域な院内伝播事例が散発しており、引き続き地域での対応が求められている。
- (3)日本のヒト用抗菌薬及び動物用抗菌剤は概ね減少傾向にあるが、抗菌薬適正使用の重要性は依然として高い。
- (4)薬剤耐性菌のゲノム比較からみたヒト、動物、食品、環境の関連性について、ゲノムサーベイランスの結果をとりまとめた。

※ また、薬剤耐性ワンヘルス動向調査年次報告書 2024 の中から注目すべきデータを抜粋し、わかりやすいイラストや図を中心にまとめたサマリ版を併せて公表した。

薬剤耐性ワンヘルス動向調査年次報告書 2024 <https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001447793.pdf>

サマリ <https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001466659.pdf>